

当事者性を活かす DV 加害者男性に対する援助

—男性相談、『男』悩みのホットラインの 24 年の経験から—

○安部達彦 ・ 森岡隆男 ・ 福島充人 ・ 濱田智崇
（『男』悩みのホットライン）（同 左） （同 左） （同 左）

1. 目的

年間 2 万人（2018 年）を超える自殺者のおよそ 7 割が男性であること、2001 年の「配偶者からの暴力の防止および被害者の保護に関する法律」（以下、DV 防止法）の施行による DV の社会的認知の高まりなどから、自治体が男性用の相談窓口を開設する例が増えている。

こうした動きに先駆けて、報告者らは、1995 年より男性の悩みを男性相談員が聴く、「『男』悩みのホットライン（以下、ホットライン）」を開設し、相談活動を行ってきた。さらに、その実績を生かし、現在複数の自治体において、男性相談窓口の開設や運営に協力している。

ホットラインの 24 年の活動が、DV 等暴力の問題解決にこれまでどれだけ寄与してきたかを明らかにする。

2. 方法

ホットライン開設 24 年となる 2018 年度時点での、相談件数の集計と相談内容の分析を行った。ホットラインは 1995 年 11 月に開設され、1 回あたり 2 時間、月 2 回（2003 年 2 月より月 3 回）の頻度で相談活動が行われている。1 回あたり 2 名の相談員が電話 1 回線を交互に担当している。場所は非公開で、相談料は電話料金の負担のみである。相談員はさまざまな職業を持つ男性（一部は臨床心理士や産業カウンセラー）が一定期間独自の研修を受け、相談にあっている。相談の質的維持と向上のために、研修の場として定期的なミーティング（自助グループ的要素も含む）やスーパーヴィジョンを行っている。

3. 結果

ホットラインのコール回数は全 3682 件で相談に関するものが 2468 件、無言や対象外が 1214 件であった。相談内訳は「性」に関する相談が 40.1%、「生き方」が 17.5%、「夫婦」が 8.6%、「仕事」が 7.6%、「DV」7.3%（180 件）であった。（表 1, 図 1）

当初 DV の相談は少なかった。ただ、夫婦関係の悩みの中に、暴力を背景にしている事が推察されるものは見受けられた。DV 相談は 1995 年度は 0 件であったが、徐々に増えて、2000 年は 10 件、2001 年に 22 件と倍になったが、2001 年に DV 防止法が施行され、DV は違法行為だと社会の認識が生まれた影響だと思われる。当時はまだ加害者対応の相談機関がなく、ホットラインが利用されたと思われる。以降減って行くのは、行政等で対応が進んで来た影響と考えられる。

なお、自治体主催の男性相談の場合、「性」の相談の割合がホットラインよりも低くなり、他の割合が増加する傾向にある。いずれにしても、幅広い内容の相談が寄せられていることがわかる。ホットラインは開設以来ほぼ「電話が鳴りっぱなし」の状態であるが、自治体主催の場合、新たに設定してもしばらくは件数が伸び悩み、広報の難しさが指摘されることもあった。

4. 考察

男性相談では、濱田（2008）が、「男性が悩みを他者に話すとき、“高いハードル”と“長い滑走路”を経てから語り出す」と述べているように、相談員の様子を確かめてから語り始める男性も多い。「この相談員なら話を聴いてくれるかもしれない」という信頼関係を作り合う時間を経て、ゆっくり語り始め、相談を終えた後には「相談してよかった」「もっとこうした相談先が増えてほしい」といった感想が多く聞かれる。

ホットラインは当初、家族に対する暴力を止めたいと思っている男性の相談窓口として発案された。当時はDVという言葉もなく、その主旨が理解されにくい状況を考え、『男性の抱える様々な悩みを、男性相談員がともに考える』という男性専用相談電話として開設された。相談員自身が男性としての当事者性（ジェンダーに規定された存在）を意識する事で、男性相談員の共感が相談者に受け入れられていく。怒りの感情は大切な感情だが、暴力を使わず表現する事の必要性を理解してもらおう。暴力を肯定するような同調をするのではなく、怒りの感情に共感する事で、信頼関係を構築し、脱暴力へと向かう道が出来て行く。

よく見られる事例として、配偶者がシェルターに保護され、思いつく限りの所に連絡しても、まったく連絡が取れなくなって、やり場のない怒りの感情に支配されていた相談者が、相談員に自分の感情をぶつける事でトーンダウンし、問題点が徐々に明らかになる。それによって、これから違法行為をせず冷静に対処するように促す相談員の話しを受け入れるようになる。

このような支援のあり方が、男性に対する支援の1つのモデルになり得ると考えている。

引用文献

- 1) 濱田智崇・『男』悩みのホットライン（編）（2018年）． 男性は何をどう悩むのか（男性専用相談窓口から見る心理と支援）ミネルヴァ書房
- 2) 『男』悩みのホットライン（編）（2006年）． 男の電話相談－男が語る・男が聴く かもがわ出版
- 3) 中野瑠美子訳 Daniel Jay Sonkin,Ph.D. Michael Durphy,M.D.（2003年）． 脱暴力のプログラム－男のためのハンドブック 青木書店

（以下の、『男』悩みのホットラインの24年間の統計データの転載はご遠慮ください。）

表1. 1995年度から2018年度の相談件数と割合

相談内容	件数	割合 (%)
1 性に関する悩み	990	40.1
2 自分の性格・生き方に関する悩み	433	17.5
3 夫婦間の問題	213	8.6
4 仕事上の悩み	188	7.6
5 DV	180	7.3
6 その他	156	6.3
7 夫婦以外の家族間の問題	109	4.4
8 問合せ	89	3.6
9 夫婦以外の男女間の問題	88	3.6
10 金銭問題	15	0.6
11 TS・TG※	7	0.3
合計	2468	100.0
無言	1124	30.5
対象外	90	2.4
合計(受話器を取った回数)	3682	100.0

※TS・TGはトランスセクシャル・トランスジェンダーの略

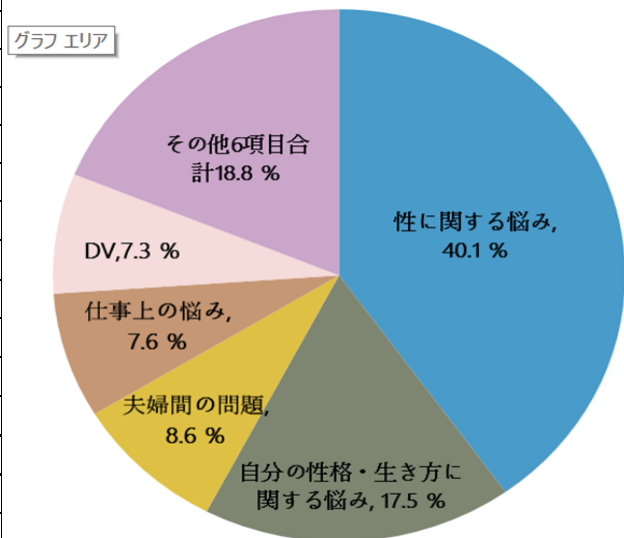


図1. 相談内容の割合